

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
連絡先 市まちづくり推進室 ☎43・8113



広がる支援の輪

商工会青年部のコロナ支援



▲支援を希望した石津さん(左)に確認しながら入力を進める仲村さん(右)

市商工会青年部は、パソコン操作などに不慣れな事業者のかたへの支援としてインターネット申請限定の「福岡県持続化緊急支援金」の申請サポートを実施しました。6月11日、第1回目の支援活動が実施され、商工会青年部の仲村浩一さんがフェイスシールドを装着し、しっかりと感染防止対策をして支援希望事業者を訪問しました。初めての試みというのもあって、一つ一つの操作を手探りで進めていきます。途中で入力内容が消えてしまうなど、トラブルもありましたが、およそ1時間で申請は終了しました。

仲村さんは「申請した後に何か問題があれば気軽に連絡してください」と、その後の支援も惜しみません。支援を受けた石津秀教さんは「自分で申請するのはとてもじゃないけれど無理だと思った。本当に助かった」と商工会青年部の皆さんに感謝の気持ちを伝えていました。

どんな人もどこにいても参加できる公民館 オンライン公民館@福津

市内で活躍するさまざまな人が出演者となり、インターネット上で映像と音声のやり取りを行いながら、テーマに沿って話を進めていく「オンライン公民館@福津」が6月14日に開催されました。西福



▲パソコンを操作しながら楽しそうに話をする貴島さん(左)と古閑さん(右)

間に住む貴島道拓さんがこのイベントを企画し、総参加者は350人を超えました。全部で13個のテーマがある中、藍の家保存会代表の古閑由美さん取材しました。これまで長年に渡ってまちづくりに関わり、津屋崎の魅力を伝えてきた古閑さん。「津屋崎は人の五感に残るまち。山笠などの文化が残っているのは、それを伝えるのは、それが伝えてきた人がいるから。人が関わり合ってきた文化が代々伝わり、今も残っているのは素晴らしいことだ」と津屋崎の魅力を笑いを交えて話していました。

地域を担う人材を育てる

市立小・中学校の校長・副校長・教頭研修会を開催



▲地域の良さを見つけることが大切と語る石丸教授

持続可能な開発のための教育(ESD)を学ぶ研修会を6月30日に開催し、これを推進する大牟田市の取り組み事例や、ESDを研究する福岡教育大学の石丸哲史教授の講話を聴きました。石丸教授は、ESDの推進が持続可能な社会の担い手を育て、それが地域の発展につながると熱弁講話を受け、津屋崎小学校の有馬昌一郎校長は「子どもたちも地域のことを自分ごととして取り組むことが必要だと感じた」と話していました。

園児たちの「ありがとう」が励みに

聖愛幼稚園から花とメッセージカードのプレゼント



▲市長にプレゼントを渡す聖愛幼稚園の先生がた

毎年6月、聖愛幼稚園の園児と先生が感謝の気持ちを伝えるに市長室を訪問してくれています。残念ながら、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、園児たちの訪問が中止になってしまいました。今回、園児たちの訪問はなく、園児たちが作ったメッセージカードを添えて、先生たちが花を届けてくれました。

参加予定者から届いた励ましの声

あんずの里じゃがいも収穫体験が中止



▲炎天下の中早朝から作業する組合員

新型コロナウイルス感染症の影響で、例年おおよそ120組が参加するじゃがいも収穫体験が中止となりました。中止を受け、あんずの里市利用組合の皆さんでじゃがいもを収穫し、あんずの里などで販売しました。

参加を予定していた人から「毎年参加していたので、とても残念」「収穫されたじゃがいもだけでも買いに行きます」といった声が電話で寄せられ、利用組合の皆さんの励みとなっていました。

一人一人の人権を大切に

人権街頭啓発を実施



▲通勤している人に啓発物品を配る市長

7月の「同和問題啓発強調月間」に合わせ、人権擁護委員や関係団体の皆さん、市長をはじめとした市職員が7月1日に啓発用の除菌ウェットティッシュを配布しました。JR福岡駅の他、2カ所で啓発物品を合計1500個配布し、同和問題への理解と認識を深めてもらうと「7月は同和問題啓発強調月間です」と呼び掛けました。